



数学から美の探究へ

◇今回は、吉田智哉さん（筑波大学大学院数学専攻博士前期課程在籍）のレポートです！

こんにちは。関高校 OB の吉田智哉です。現在は筑波大学大学院数理物質科学研究科数学専攻博士前期課程 2 年に所属しています。今回は関高校生の皆様に私の大学院の研究生活とともにこれから進学する人に向けて話をしたいと思います。

研究分野の紹介について

私の研究分野は数学のモデル理論という分野をやっています。聞きなれない方が多いと思いますが、数理論理学と云われる分野の一部になります。数理論理学というのは、数学における「正しい」と「証明できる」の違いや、それらの同一視について研究する数学です。

これから大学に行く皆さんにとって学部生と大学院生の違いはよくわからないかもしれません。私的なイメージですが、学部は分野における基礎をつけるところ、大学院は分野における最先端を研究するところですかね。



今は数学を研究していますが、いろんなことがありまして、博士後期課程は数学ではなくて美術大学に行って美学の研究をしようと思っています。美学というのは「美をどう認識するのか？」や「美的なもの」と「美的でないものとの違いは？」と言ったことを研究する学問です。数学とは全然違うと思われるかもですが、私は数学を使って美学の研究を行おうと思ひ、美学の博士課程に進むことにしました。

美学では作品と鑑賞者の関係性を考えます。その関係性を表すモデルを数学的な記述で考察できないかという研究をしています。決して数学の美しさについてとかではないので…笑

学生に向けて

みなさん、今授業を受けたり受験勉強をしてると思います。その時に一度は「こんな勉強、社会で役に立つわけない。無駄じゃないの？」と思われる方が多いと思います。私は今美学を学ぶにあたって、世界史や日本史、日本文学といった、昔あまり好きでなかったことを今勉強しています。今は勉強して楽しいです。

私は役に立たない勉強法はあるが、役に立たない勉強はないと思います。

例えば、私が数学を教えているデザイナーさんは、パターンに使われている数学を知りたいので数学を勉強しています。また、文系で就職したけど、統計や微積分が仕事で必要だから教えてという方もいます。このように、今いないからと言って、10年後や20年後もいないとは限りません。まだ10代で先のことを考えるなんて難しいかも知れません。ですが、この事が頭の中に残っていたらいいなと思います。

